



ばとなだより

Patona

第7号
2011.5



駒ヶ根市中央16番7号
Komagane-shi, chuo, 16-7

TEL : 82-1150 FAX : 82-1151
Mail : kmcenter@cek.ne.jp

初のイメージリア宣言事業に三事業を認定

ガイドブック・子育て情報誌・高齢者講座

夢を形に。駒ヶ根市の市民団体のまちづくり活動を支援する「こまちゃんイメージリア宣言事業」の初の認定式が三月十五日、こまがね市民活動支援センターで開かれました。駒ヶ根ガイドブック作成の「こまがね美しく撮り隊」、子育て情報誌を作る「おでかけマママップ」、高齢者の生きがいづくりに取り組む「カルチャークラブゆあーず」の三団体に認定証書を交付し、今後の活動を期待しました。



三団体の代表に認定証を交付

市では昨年十月「ばとなまつり」で夢と希望にあふれる市民活動・地域活動を市民全体で応援しようとして、「こまちゃんイメージリア宣言」を行い、広く事業への申請を受け付けていました。初回は三団体が申請し、駒ヶ根市が認定しました。

認定式で、杉本幸治市長は「それぞれの思いや夢を形にする取り組みに期待しています。市と一体になってまちづくりを進めましょう」と話しました。

この後、三団体代表者らがビデオや作品などを示しながら、活動の目的、内容、これからの夢(展望)について、いきいきと発表しました。

懇談会では、資金不足や認知度が低いなど、悩みや課題、将来展望について意見交換をしました。

イメージリアとは英語のイメージン(想像する)とエンジニア(技術者)を組み合わせた造語、「夢を形にする集団」という意味です。市では今後認定事業を増やし、秋には全体発表の場、仮称「イメージリアフォーラム」を予定しています。



それぞれの感性で植え付け

初のガーデニング講座 「早春の花鉢づくり」

こまがね市民活動支援センターで三月十二日、登録団体のガーデニング美由が初めて企画したガーデニング講習会が開かれました。

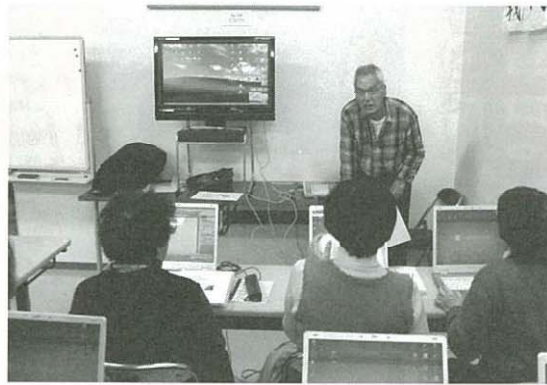
市民八人が参加、講師の百瀬志乃さんから苗の選び方、用土などの説明を受けた後、用意したピオラやアリッサム、ストックなど四種類の苗の中から、それぞれの感性で花色を選び、七号のプランターに植えこみました。

参加者は「春らしい、素敵な鉢植えが出来ました」と笑顔。

講習会は来年二月まで、観葉植物やハーブ、クリスマスリースなど全六回開催し、そのつど、参加者を募集します。詳細は「ばとな」まで。

繰り返し演習で、必要最低限のパソコン操作を学ぶ

PCチャレンジ
(高齢者パソコン教室)



熱心に基礎を学ぶ会員

「高齢者がパソコン操作で、どこでつまづくか、同じ高齢者だからよくわかります。一般的に高齢者は覚えが悪く、忘れることが早い。もちろん、私も例外ではありません。だから、同じ操作を繰り返し、確実に自分のものにしていくのが大切です」と、会の代表で指導者でもある吉村健吾さん。

「地区や団体の役員になった高齢者が、連絡文書や予算、決算書を作成するのに、パソコン操作ができなくて困っている。何とか手助けをしたい」と、吉村さんは〇

三年五月、会を立ち上げ、市文化センター視聴覚室を会場に、教室を開催しました。一昨年十月、会場をこまがね市民活動支援センターに移動しました。教室は毎月第一、第三水曜日午後七時から約二時間。

吉村さん手作りのテキストを使って、「電源を入れる」「切る」「マウスの使い方」の初歩から、ワードを使って文章作成、エクセルで表組み、簡単なグラフ作り、予算書、決算書、簡単な編集などの操作のほか、年賀状作り、写真の取り込み、メールなど参加者の希望に沿って、カリキュラムを組み、基礎操作を学んでいます。

吉村さんの指導は高齢者には「分かりやすい、できるまで教えてくれる」と好評、常時十人前後が参加しています。「パソコン操作は個人差が大きく、苦手な人もいますが、何年も続いて、参加者同士、教えあって、スキルアップしています。パソコンは難しくはありません。覚えると大変便利です。本当に必要な操作だけ、確実に覚えましょう」と参加を呼び掛けている。持ち物は筆記用具のみ

代表・吉村健吾さん

事務所・市内赤穂

四六〇三一五

電話・八三一二九四一

会員・八人

千畳敷カールや駒ヶ根高原・光前寺でボランティアガイド

駒ヶ根観光ボランティアガイドの会



花の名前や山の気象について学習 (千畳敷にて)

「案内していただき、高山植物や中央アルプスが一層好きになりました。また、来たい」と言われるのが一番うれしく、励みにもなっています。来訪客に喜ばれるガイドができるように、会員の資質向上を目指して、研修に力を入れています」と話す赤羽明人会長。同会は〇二年、山岳ガイドと自然観察講座修了生の合わせて約二十人で設立。観光ボランティア活動を通じて、自然文化を守り育てるとともに、心のこもった、ぬくもりのある言葉で来訪客をもてなし、駒ヶ根の魅力向上を図ること

が目的です。

主な活動は中央アルプス千畳敷カール、駒ヶ根高原で、動植物や山の名前、山の気候などを説明したり、自然保護を呼び掛けています。

研修は千畳敷カールでの現地研修をはじめ、市博物館学芸員や有識者を講師に中央アルプスの地形や地質、気候、動植物、伊那谷の食文化などガイドとして必要な幅広い知識を吸収してきました。また、質の高い観光を目指して、観光ガイドの先進地視察も行い、ガイドのノウハウを具体的に学んでいます。

設立から十年目を迎え、会の課題は会員の高齢化と専門的な知識を持った人材の育成です。そこで、今年度も会員を募集し仲間を増やし、新たなカリキュラムで研修に励み、会員のレベルアップを図っていく計画です。

また、「駒ヶ根には豊かな観光資源があります。中央アルプス以外の市内の観光スポットにおけるガイドも視野に入れていきたい」とも。同会では「一緒に学んで、ボランティアガイドになりたいか」と会員を募集しています。

代表・赤羽明人さん

事務所・市内赤穂

七五九一四四七、駒ヶ根観光協会

電話・八一七七〇〇

会員・三十二人

区紹介 ⑩

「町三区」

多彩なイベントを通じて、
区民は仲良く、元気に



笑顔が集まりにぎやかにお花見

南はアルプス中央信金赤穂営業部から辰巳町南側、駒ヶ根駅前までの中央町内と、二区、四区をまたいで、飯坂の飛び地もあり、複雑に入りこんでいます。
区内には中央商店街や、優良企業が立地する飯坂工業団地があります。中央商店街では駒ヶ根のビッグイベント、祇園祭、KOM A夏、国際広場が開かれています。飯坂地区には赤穂東小学校の開校と同時に、青少年健全育成、地域の発展、親ほくを目的に発足した任意団体、飯坂祭典団がありま

す。団員が会費や寄付を集め、祇園祭に参加したり、八月十四日に東小グラウンドにやぐらを組み、盆踊り、子どもは手持ち花火、打ち上げ花火を上げ、子どもから大人、高齢者まで多くの区民を楽しませていきます。
区や分館の事業も多彩で、敬老会、歩け歩け運動、成人式、区民ふれあいマレットゴルフ、焼肉大会、区運動会、ふれあいいきいきサロン、ふれあい花壇などがあります。特にふれあいいきいきサロンには毎回三十人前後が参加し、四月の開催で四十六回にもなります。ふれあい花壇も「できるだけ自分たちで」と種をまき、苗作りから実施しています。

「区の地形は複雑ですが、区民は和気あいあい、まとまりのある元気な区です」と松井俊仁区長。また、区長に就任した直後の三月十一日に東日本大震災が発生、「区長として、対策が後手後手にならないように、早急に、自主防災組織・対外連絡系統の見直しをしなければと考え、着手しました」。系統図には大規模災害対策、水災害対策、災害時の弱者対策、防犯対策が盛り込まれています。

区紹介 ⑪

「福岡区」

最大規模の区、世帯数多く、
課題、悩みも多岐に



盛り上がった区民交流フェスティバル

北は如来寺川、南は中田切川まで、西は西山山麓、東は井の上橋付近までと面積は広い。戸数も千四百戸と多く、駒ヶ根工業高校や赤穂南小学校、幼稚園、保育園、隣接に千寿園、順天寮、グループホーム、デイサービスセンターなど介護・福祉施設もあり、医療機関も充実しています。優良企業も多く、新たに食品関係の会社も立ちました。

市民いこいの場、馬見塚公園は池を巡って桜並木、ミツバツツジのトンネル、残雪の中央アルプス

など人気の撮影スポットです。毎年五月三日の蚕玉神社の例祭にはだるまやおもちや、食べ物、飲み物など二百店ほどの露店が並び、特設ステージでは宝投げ、演芸なども賑やかに行われます。「今年は大震災の影響で寄付集めも難しく、中途半端に行うよりもと考え、神事のみといたしました。養蚕の盛んだったところは辰野町から松川町までの近在近郷から二万人が訪れたという記録もあります。残念です」と松尾嘉夫区長。

区は一九五〇年小町屋区から独立。一昨年在が区制施行六十周年に当たることから、記念事業として、区誌の発刊事業に取り組んでいます。いよいよ今年度は発刊の運びになります。

区の課題は老朽化が進んでいる「老人憩いの家」の改修と南部地区集会施設問題、「十二天の森」の今後の在り方、伊那福岡駅前の整備などがあります。

「自治組合の再編が最大の課題、戸数が減少し、自治組合長の選出さえも困難な組合も出ています。区会議員制の導入など硬直化が懸念される区の代議員制度の改革も必要ではと考えています。区が大きいだけに課題も悩みも多岐に亘っています」。

区役員
区長・松井俊仁さん
副区長・小林栄次郎さん
総務・川上健二さん
会計・林 光夫さん

区役員
区長・松尾嘉夫さん
副区長・渋谷和彦さん
会計・古田 功さん

こまがね情報発信地
まちなかスクエア

3

今年も開店します。

昨年オープンした「まちなかスクエア」は、今年度も引き続き運営することになりましたので、よろしくお願ひいたします。



さて、かねてより企画しておりました、市内を短時間で周遊できる「こまがねまち歩きマップ」が完成しました。中心市街地の中にある名所、旧跡十か所を私たちの目線で選んでみました。二時間以内で周遊できるコースとなつていきますので、ぜひ、いろいろな場面で役立てていただきたいと思います。

店舗・市内中央一七一—二三
営業・午前十時～午後六時
電話・八二一—一七一
定休日・日曜日 月曜日

被災地救援イベントで
被災地報告

当センター登録団体「デジタル教室『風』」の講師である加勢春樹さんの呼びかけで、東日本大震災と県北部地震の被災地救援イベント（伊那谷の住民有志でつくる実行委員会主催）が四月二十三日、「ぼとな」で市内外から三百人余が参加し行われ、市社会福祉協議会の片桐美登さんの被災地報告がありました。

片桐さん、堀内豊彦さんから三人は四月五日から十二日まで、地震と大津波で甚大な被害を受けた宮城県女川町で復旧活動を行いました。石塔に乗り上げた電車や腐臭を放つサンマの山、ビルにつり下がった自動車など、目を覆うばかりの被災地の様子をスライドで紹介し「支援は現地の人々の思いに沿うことが大切」と訴えました。

「みんなの元気を被災地に」と願って実施したイベントでは、各団体による歌や踊り、楽器演奏などのステージ発表、屋外ブースのほか、義援金の募集、献花



ステージ発表をする子ども達

台を設け犠牲者の冥福を祈り、支援への決意を新たにしました。

寄稿
原発と津波の町女川
こまがね市民活動支援協会
幹事 堀内豊彦



被災地風景（撮影：堀内さん）

行けども、行くだけでも、ガレキの山、車も魚船もタンカーも住宅も会社もごっちゃ混ぜ

の風景に「すごい」の言葉しか出ませんでした。女川町はコンクリートの建物が数えるほどポツンポツン、木造の建物は流されて基礎しか目につかない。ビルの屋上に車が引っかかっていたり、ビルの上に民家が載っていたり、「この町の住人達は生き延びられたらどうか」そんな環境の中私たちが二人のボランティアと社協の職員一名が八日間の支援に参加しました。

毎日がガレキとの戦いでした。トラック一杯の資材を持参し照明や発電機や工具が適切で、結構活躍できたと思つています。

被災の後片付けで、小さな子供を連れたある若夫婦の家を訪ねた時「五年前に家を建てて残ったのは借金だけ、これから遠縁を頼って山形に引越します」と話し、奥さんは「仕事もなくし、もう涙も枯れました」と話す傍らで私たちは声もでませんでした。

「義理も人情もわかる日本人だもの」これからも何らかの支援を続けて行きたいと思ひます。

編集後記

去る三月十一日、世界を震撼させる大きな災害が日本に起こりました。被災された皆様に心からお見舞い申し上げます。尊い命を失われた方々には心からご冥福をお祈り申し上げます。日々、被災地の情報を目にするたび、「何とかご支援したい」と強い想いでいる方が多いのではないのでしょうか。

私自身も昭和四十二年に長野市の松代群発地震で一年以上に亘る地震の恐怖を体験しました。一日に何度も安心のできる生活ではなく、自然の驚異に力なく、ただ立ち尽くすばかりでした。しかし、そのような混乱の中で築かれる人との支えあいや心の繋がりは何事にも変えがたく、勇気づけられるものがあります。ひとりの力は小さいけれど、人々が集まってつくる思いやりの心は大きなものがあると感じます。そのひとに成り代わってあげられない歯がゆさは誰もが感じる場所ですが、むしろ、一方的にお世話をしてあげる事よりも、ご本人が望むことに自分の出来る範囲の力で行動し、勇気づけてあげることが、混乱期の中では大切なのではないのでしょうか。

「ぼとな」では、義援金の受付を行なっております。エコポイントの義援金への振替も取り扱っておりますので、皆様のご理解とご協力をよろしくお願ひ致します。

【事務局長 宮澤】

発行日二〇一一年(平成二十三年)五月
発行者
こまがね市民活動支援センター